令和２年３月 16 日

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会 実施報告

地方独立行政法人大阪府立病院機構
　理事長　遠山　正彌　殿

大阪国際がんセンター
　総　長　松浦　成昭　殿

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会
委員長　北村　温美

大阪国際がんセンターの医療安全に係る監査委員会設置要綱第８条第１号に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

１．監査の方法

大阪国際がんセンターにおける医療安全に係る業務の状況について、以下のとおり管理者等からの聴取及び資料の閲覧等の方法によって説明を求めることにより、監査を実施した。

２．監査の実施日並びに出席者

≪開催日時≫　令和２年２月 26 日（水）　15:00～17:10

≪場　　所≫　大阪国際がんセンター　５階　総長会議室

≪出 席 者≫　監査委員　北村　温美（委員長）
三浦　潤
三木　祥男
センター　松浦　成昭　総長
三ツ石　浩幸　事務局長
谷上　博信　医療安全管理部門長・麻酔科主任部長
小泉　素子　医療安全管理者・副看護部長
下辻　恒久　医薬品安全管理責任者・副薬局長
和田　美由紀　副看護部長
松本　江美子　看護師長
（庶務）松田　充代　総務･人事グループ主査
初木　千歌　総務･人事グループ主任

３．監査の内容及び結果

（１）Quick in 外来　初診日から入院決定までのリスク把握と各部門取り組み

標記について、初診日に医師診察までに、看護師および薬剤師による各種スクリーニングと検査オーダー等を行うクイックイン外来の運用と設置による効果について説明があった。

（２）入退院支援センターにおける入院前スクリーニングとその対応

入院決定後、入院までに患者情報を収集し、周術期のリスク軽減および質の保たれた在宅医療への円滑な移行を目指した多面的な取り組みについて、フロー図を用いて説明があった。スクリーニングとその結果の共有、多職種・多部門での術前介入が体系的に実施されており、実際に術後肺炎の減少や入院日数の短縮等の効果が得られていることを確認した。

（３）退院困難な理由のある患者への対応について

標記の取り組みについて説明があり、多職種カンファレンスにより、適正に介入が行われていることを確認した。

（４）画像・病理検査における重要所見の見落とし防止のための多層的取り組みについて

標記取り組みについて、画像診断レポートの未確認率が減少していること、病理診断レポートについても既読管理システムを運用開始したこと、医療情報部により精査や手術が必要な所見を自動抽出しカルテ監査を行う体制を整備・運用開始したことの報告があった。

（５）RRS の紹介

心停止に至る前に早期に介入することで救命率を高めることを目的とし、RRS 介入基準の制定および院内体制の整備を行ったこと、今後の運用開始予定について報告があった。

（６）術後患者の異物遺残について

異物遺残を防ぐための対策について説明があり、適正な運用が行われていることを確認した。

４．総括

大阪国際がんセンターの医療安全に係る業務について監査を実施したが、概ね適正な管理がなされていると認める。

入院治療の円滑化と周術期リスクの軽減を図る入院時支援の取り組みは、医療の質と安全性の向上につながるものであり、実効性を伴っていた。入退院支援センターをハブとして多部署・多職種の連携がとられており、先進的で充実した体制であると評価される。また、RRS の体制整備も心停止に至る前に介入し救命率を上げるためのものであり、これらの先行的安全対策に病院全体で取り組む姿勢は高く評価される。

画像・病理診断レポートの重要所見の確認徹底に関する対策については、システム構築後も現状の把握と評価を行い、診療情報管理士がカルテチェックを行うなど多層的であり、かつ効率的な取り組みがなされており高く評価される。

引き続き、多職種連携、システム活用、個々の職員のスキルアップ教育により、医療安全のさらなる充実を図られることを期待している。